

平成25年度 京都府立京都八幡高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

学校経営方針	昨年度の成果と課題	学校経営の重点
授業を大切にし、生徒の能力を3年間で最大限に伸ばして、進路を保障する。そのために、生徒に基礎・基本を徹底し個性を伸ばすことにより、知識・技能に加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力までを含めた、幅広い学力を育む活動を推進する。 また、基本的な規範意識と倫理観、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性・社会性を育む活動を推進する。 そうした実践を通して南北キャンパスの絆を強め、教職員の資質向上に努めるとともに、信頼され、期待される学校づくりを推進する。	学校評価システムや授業評価を改善し、UD推進計画に基づき、多様な学力の生徒に対して学習システムのUD化を進めてきた。開校して6年が経過した今、その内容が形式化・形骸化に陥らず絶えず教育への情熱と良質な知見に裏打ちされたものになっているかの点検・改善が継続的に必要である。 また、京都八幡高校のコンセプトである「科学・共生・感動」の具現化を図る教育活動を着実に進展させるとともに、分掌や教科毎の取組を学校全体の視点から点検し、重点目標の達成につなげていくことが、地域に開かれ、信頼され、期待される学校づくりへの一層の推進につながり、本校の大きな課題である。①原級留置・中途退学の問題、②入学選抜における志願者数の問題の克服に寄与するものとする。	あらゆる教育活動をおして、「科学・共生・感動」の3つのコンセプトの具現化を図るとともに、生徒及び保護者に信頼され、地域から期待される学校づくりを推進するため、以下のことを本年度の重点課題とする。 ①学習システムのUD化と授業を大切に取る取組の充実 ②保護者連携と基本的な生活習慣の確立による社会的自立心の育成 ③学校行事、部活動、ボランティア活動等の充実による社会性の涵養 ④キャンパス間・分掌間の相互理解と協働体制の確立 ⑤専門学科の充実とヒューマンエリアが求める生徒像の確立 ⑥八幡支援学校との日常的な交流と授業交流をおした校種間連携の推進 ⑦「プロジェクト8」によるクリエイティブな教育活動の充実と実践

分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標	ターゲット	評価	具体的方策		方策の評価指標		ターゲット	評価	成果と課題									
							重点目標の達成状況を把握するための具体的な方策	重点目標の達成状況を把握するための具体的な方策														
			「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。	どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたか。			重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。	どのような状態をもって「方策を十分講じた」と判断するか。	中間	年度末												
組織・運営	組織・運営	学校運営	豊かな人間性・社会性を育む実践と規範意識を育てる実践を通して南北キャンパスの絆を強める。	南北キャンパス間、各分掌・教科間の相互理解に基づく迅速な連携と協働を行う	部長会、職員会議ごと	3	両キャンパスの行事等を共有できるような密な分掌・教科間の連絡と研修を行う。 各部長間で連絡を取り配付プリント等を互いに交換するように依頼する。	両キャンパスのよりよい点を共有できるような関係分掌部長による研修の実施 依頼回数	1回	2	3	部長会議ごと	3	南北キャンパスの関係分掌間において、部長会議、各行事等の事前・事後の調整・確認等は円滑に実施された。南北の特色ある取組について、理解を深めた。								
		外部との連携	家庭・地域社会との一層の連携を推進する。	PTA役員会等の各会合、学校評議員会・学校評価会議等を通じ、適切な評価を進める	各2回	3	PTA役員会等の各会合、学校評議員会等を通して保護者・地域社会の意見等を集約する。 PTA役員会等の各会合、学校評議員会等で集約した保護者・地域の意見等を、教職員に周知する。	PTA各会合に出席、学校評議員会等を開催し意見等を集約する回数 職員会議での年間報告回数	2回	2	3	3	3	PTA・学校評議員会等の各種会議において、学校に対する建設的な意見等をいただくことで、本校教育活動の改善に活かすことができた。								
UD推進部	UD教育	UD学習	ユニバーサルデザインの姿勢や態度を身に付けさせる。	年度末アンケートでの「人がもつさまざまな個性のちがいを認めあえる」の項目に対する肯定率	85%	3	各学年毎の目標に基づきUD学習を推進する。 全学年を対象に「UDつうしん」を発行する。	各学期におけるUD学習の実施回数 年間の発行回数	1回	3	3	10回	3	3	年度末アンケートの肯定率は94%で目標を達成できた。また、UD学習、UDつうしんについても計画とおりに実施した。今後のUD学習も新たな枠組みで実施できるように検討していきたい。							
		生徒募集	本校の魅力や特徴をわかりやすく情報発信する。	入試選抜における志願者数	募集定員を超える	3	学校ホームページを充実させる。 学校説明会を開催する。 中学校訪問を実施する。	トピックスの発信やコンテンツの月間更新回数 説明会毎に実施するアンケートによる肯定率 年間訪問回数	1回	3	3	60%	3	3	2	3	3	前期選抜においては、普通科、専門学科ともに志願者増となったが、中期選抜では、残りの募集人員を上回れなかった。今後も本校の魅力をわかりやすく発信できるよう具体的方策を質量ともに充実させることに努めたい。				
教務部	組織・運営	生徒異動	原級留置・中途退学を減らす。	転・退学者数前年度比	5%減	3	調査前、学期末に成績不振者に対する基礎補充を設定する。 授業状況調査を実施する。 HR出席簿への転記を呼びかける。	年間設定回数 年間実施回数 年間設定回数	4回	3	3	2回	3	3	2	3	3	方策については実施することができた。来年度に向けて新たな方策を模索したい。				
		教育課程	「言語活動」と「学習評価」についての研修会を行う。	実施回数	2	3	教務部内で教育課程に関する研修会を開催する。 北、南教務部での連絡調整会を開催する。 教科主任会議を開催する。	年間開催回数 年間開催回数 年間開催回数	3回	3	3	2回	3	3	1回	3	3	3	新学習指導要領に係わる重点事項については伝えることができた。学校設定科目に係わる年間指導計画についての作成が今後の課題となる。			
生徒指導部	学校行事	文化祭・体育祭	文化祭・体育祭を充実させる。	生徒満足度アンケート肯定率	75%	3	文化祭・体育祭の実施要項を6月末までに提示する。 文化委員会を開催する。 体育委員会を開催する。	実施要項の提示時期 文化委員会開催回数 体育委員会開催回数	6月	3	3	2回	3	3	2回	3	3	3	生徒満足度アンケートの肯定率が77%となり、昨年度より1ポイント上昇した。体育祭においては、100・80m走を学年対抗にするなど工夫をした。今後は、文化祭、体育祭ともに、委員会活動を機能させ、さらに充実した学校祭にしていきたい。			
		生徒指導	学校を信頼し、安心して高校生活を過ごせる環境をつくる。	生徒満足度アンケート肯定率	60%	3	携帯電話・自転車のマナー指導を実施し、指導回数を減少させる。 校内巡回の実施。 交通安全のホームルーム連絡。	指導回数前年度比 校内巡回の実施回数 職員朝礼での交通安全呼びかけ連絡の実施回数	10%減	3	3	100回	3	3	10回	3	3	3	3	生徒満足度アンケートの肯定率が71%となり、昨年度より6ポイント上昇した。携帯電話や自転車のマナー指導においては、それぞれ10%強も減少した。積極的な啓発活動や巡回指導の成果のように思われる。生徒が安心して学校生活を送ることができるように取組を考えていきたい。		
進路指導部	進路希望の実現	就職・進学希望の実現	希望進路区分へ進ませる。	進路希望実現率	85%	3	1・2年生向けガイダンスを実施する。 3年生向け進路ガイダンス(進学・就職)を実施する。 看護・医療系希望生徒に対するガイダンス	実施回数 実施回数 実施回数	2回	3	3	10回	3	3	8回	3	3	3	3	両キャンパス共に具体的方策は実施できた。年度末に向けて、まだ進路未決定の生徒については、進路指導部と担任と連携をとり、希望進路実現に向けて指導にあたっていく。		
保健部	保健管理	環境美化	美化活動を充実し、環境への意識を高め、学習する雰囲気を整える。	生徒満足度調査「学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	52%	3	ゴミの分別を徹底させ、クラスごとの分別状況をクラスに戻す。 大掃除を学期に2回以上実施し、欠席者に掃除補充をさせる。 『ほげんだより』に「環境美化と学習」に関する情報を掲載する。	実施回数 掃除補充の実施率 掲載回数	学期1回	3	3	90%	3	3	2回	3	3	3	3	満足度調査52%。分別意識の高まりは見られるが、ゴミの回収・分別等の方法を工夫して、更なる意識の向上をはかる。		
第1学年部	学習指導・生徒指導	規律の確立	基本的な生活習慣の確立を図る。	生徒満足度調査「学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	51%	3	日々のSHRにおいて服装・髪などの確認と指導を行う。 授業中、休み時間などの巡回を行う。	担任による確認・指導頻度 担任、学年部長による校舎の巡回頻度	週3回	3	3	毎日	3	3	3	3	3	3	3	満足度調査では1年生全体で56%(北53%、南68%)が肯定意見となっており、全体的には前向きに学習している。今後も、身だしなみや生活態度や学習姿勢に課題を持った生徒への指導の充実が必要である。		
		HR・自主活動	学年集団の育成	京都八幡高校に対する信頼感をもたせる。	生徒満足度調査「学校を信頼し、安心して高校生活を過ごせますか」の肯定率	63%	3	生徒に対する評価と課題を伝えるために学年集会を行う。 生徒の状況を把握するために担任と生徒との二者面談を行う。	実施回数 実施回数	年間4回	3	3	年間3回	3	3	3	3	3	3	3	満足度調査では1年生全体で72%(北71%、南74%)が肯定意見となっており、多くの者が前向きに学校生活に取り組んでいる。今後も携帯指導や身だしなみ等に課題を持つ生徒への指導を充実させ、安心安全な学校生活になるようにしていきたい。	
第2学年部	学習指導	学習環境	学校全体に学習する雰囲気をつくる。	生徒満足度調査「学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	55%	2	授業中、休み時間などの巡回を行う。 成績不振・欠課過多の抑止に向けての個別面談を行う。	学年や学科による教室の巡回頻度 個別面談の実施回数	毎日	3	3	3回	3	3	3	3	3	3	3	3	北キャンパスでは、不審者対策も兼ねて授業中、休み時間以外の放課後なども見回りを行った。また、重点目標の評価指標において、47%にとどまり、3の基準に到達することができなかった。特に、南キャンパスでは完璧を求める生徒が多かったため、数値が伸びなかった。	
		進路指導	進路意識の向上	進路希望未決定者を減少させる。	学年末進路希望調査の未決定生徒数割合	15%未満	3	オープンキャンパス・模試受験を推進する。 「インターンシップ」や「一足早く将来体験」を推進する。 進路希望未決定生徒との担任面談を実施する。	進学希望者への面談回数 就職希望者への面談回数 対象生徒面談回数	2回	3	3	2回	3	3	2回	3	3	3	3	3	学年指導に加えて、進路指導部主催の「進路ガイダンス」、「卒業生からの体験談」や「一足早く将来体験」などの行事も実施し、南北キャンパス合わせて進路希望未決定生徒数は全体の約8%となった。特に、南キャンパスでは、介護福祉科の校内、校外実習や人間科学科の小論文、保育科での交流授業などを体験することにより進路実現のための学力伸長が図られ、進路希望決定に大きく活かされた。
第3学年部	進路指導	進路保障	進路を決めて卒業させる。	年度末での進路決定者の割合	90%	2	個別面談による進路指導を行う。 学年部による面接指導を行う。 LHR、総合的な学習の時間等において、進路実現に向けた学習を行う。	担任、学年部長、学科長による面談回数 面接受験生徒への面接指導回数 実施回数	3回	3	3	1回	3	3	8回	3	3	3	3	3	2月末時点で進路未決定者が31名(浪人3 受験中6 アルバイト21 就職予定1)おり、年度末での重点目標の達成は難しいと考える。経済状態等から予想以上にアルバイトが増えたのが1つの原因である。	
事務部	施設・設備管理	生徒の事故	生徒が安心して学べる教育環境の整備を行う。	施設・設備等に起因する生徒の事故件数	0件	3	校舎内外の日常点検を実施する。 点検結果のとりまとめ表を作成する。 整備を必要とする事項を所管課に報告し、改善を依頼する。	巡回の週当たり実施回数 取りまとめ表の年間作成回数 年間の報告・依頼回数	2回	3	3	2回	3	3	2回	3	3	3	3	3	施設・設備に起因する生徒の事故が1件発生したが、その原因を究明し、かつ所管課に報告後改修を行い迅速な対応ができた。今後も生徒への安全確保に向けて、日常的な点検を行い未然に事故防止を図りたい。	
専門学科	魅力ある学科づくり	学習指導	専門学科生としての学習意欲を高める。	生徒満足度調査「学校全体(南)に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	55%	3	授業の開始時と終了時の礼と挨拶を徹底する。 学科研修会を開催し、情報交換等を実施し研修する。 学科集会を実施し、各学年の連携を強める。	授業における指導割合 年間の開催回数 年間の開催回数	96%	3	3	毎月1回	3	2	3	2	3	3	3	3	3	実践発表会の姿からも学科の取り組みへの関心意欲の高さが伺えた。しかし、日々の学習態度や意欲の改善、学力向上のためには次なる方策が必要となり課題である。また、自己責任を持ち、考え行動する力を育成することも課題である。

分野・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標	ターゲット	評価	具体的方策	方策の評価指標		ターゲット	評価	成果と課題
								中間	年度末			
			「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。	どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたか。			重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。	どういう状態をもって「方策を十分講じた」と判断するか。	中間	年度末		
国語科(北)	学習指導	授業規律の確立	授業規律を確保し、基本的な学習態度を身につけさせる。	授業アンケートQ5「先生は、私語や不要物などに対して注意を行い、規律ある雰囲気のある授業をしている。」の平均値	3.3	3	授業開始時に机上の整理や環境整備、机の整列などの指導をする。 ベル着や私語などに対する指導を行う。 授業態度や課題提出などを平常点として評価の対象とする。	実施率 80% 80% 80%	3 3 3	3 3 3		方策については達成されている。Q5の値は3.54であり、指標もクリアしている。
地歴公民科(北)	授業	基礎学力	基礎学力の定着を図るために、意欲的に授業に取り組ませる。	授業アンケートQ4「先生は興味や関心の高まる授業をしている。」の平均値	3.2	3	定期考査前にノートやプリントの点検を行い、学習の定着度を確認する。 学習内容の定着を図るために基礎補充を活用する。 魅力ある授業づくりのため、お互いに授業の参観・講評を行う。	ノートやプリントの点検回数 実施回数 実施回数	5回 3回 3回	3 3 3		生徒アンケートQ4の結果は3.38であり、重点目標は達成できた。具体的方策についても確実に取り組むことができており、次年度に引き継いでいきたい。
数学科(北)	授業	学習意欲の向上	生徒が積極的に参加できる授業をつくる。	授業アンケートQ9「あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいる。」の平均値	3.3	3	「評価カード」を配り、教科書・ノートなどの持参物を確認する。 副教材を活用する。 定期的にノート点検を実施する。	授業中における確認回数 副教材使用回数 ノート点検回数	週1回 年間20回 年間6回	3 3 3		昨年度は基準が3.2であったが、今年度は3.3に引き上げた目標を達成することができた。今後は更に、数学への苦学意識をもつ生徒に対して、意欲が高まる授業や取組を行いたい。
	研修	指導力の向上	数学科の教員が主体性を持って研修を行う。	数学科研究会における、各自の主宰回数	年1回	3	中学校や他校での公開授業等に参加し、本校での指導のあり方を検討する。 データ分析について理解を深める。 研究授業を行い、各自の授業方法について交流を図る。	公開授業等への参加回数 数学科研究会の実施回数 研究授業の実施回数	年2回 年6回 年2回	3 3 3		後半にかけて研修会を多く実施することができ、予定通り進めることができた。来年度も続けて、新しく扱う内容であるデータ分析の研修を行いたい。
理科(北)	授業	学習環境	学校全体に学習する雰囲気をつくる。	生徒満足度調査「学校全体に学習する雰囲気がありますか。」の肯定率	45%	3	授業開始前に教科書、ノート、資料集を机の上に準備することを呼びかける。 観察や実験を実施する。	授業での呼びかけの割合 実験・観察の実施回数	90% 100回	3 2	3	毎時間の声かけによって、理科としては一定の授業規律を保っていると考えられる。また、理科の学習意欲を高めるためには、やはり実験が必要である。教室での演示も含め、効果的に実験ができるよう計画を見直していきたい。
	授業	生徒の意識向上	生徒を授業に向かわせ、確実な学力定着を図る授業づくりを検討する。	授業アンケートQ9「あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいる。」の平均値	3.3	3	長期休業中に野外活動等の研修へ参加する。 授業に関する報告・検討会を開催する。 練習プリントや問題集を使った問題演習を定期的に行う。	研修参加回数(1人につき) 報告・検討会年間実施回数 問題演習の実施回数	2回 5回 200回	3 3 2	3	年度末が近づくにつれ、進級・卒業に向けての危機感が強くなってきていることもあり、問題演習などへの取り組みも積極的になっている。今後はこの緊張感がもっと早い時期からできるように指導していきたい。
保健体育科(北)	授業	授業規律の確保	生徒の積極的な授業への参加を増やす。	授業アンケートQ6「あなたは、授業の開始時に着席し、授業の準備ができています。」の平均値	3.5	3	ベル着の励行 副教材の内容の工夫をする。	体育は3分前集合し、保健は1分前に授業準備ができています 教科内での研修の実施回数	30% 学期1回	3 3	3	授業アンケートQ6の平均値が3.6で目標値を達成することができた。年間を通じて、授業前に声掛けをし、余裕を持って授業に入るよう指導を徹底できた。しかし、授業が始まると無気力の生徒もおり、指導内容の充実を図り、改善していきたい。
芸術科(北)	授業	生徒の授業への意識の向上	意欲的に取り組む姿勢を高める。	授業アンケートの全体平均値	3.3	3	忘れ物・私語・居眠り・不要物使用・落書き・活動状況について常に指導を行う。 生徒が意欲的に取り組む姿勢を高めるために教材・指導方法を工夫する。	授業規律確保のための声かけの割合 各科目の府立高校研究会研修会への出席回数	80% 2回	3 3	3	2学期の授業アンケートの教科平均のQ1～Q5は3.49、Q6～Q10は3.50で3の基準を超えている。ただ、少し努力で満足するのではなく、どうすれば生徒たちが完成後も少しでも良い作品、良い演奏に向けて工夫を重ねて努力することができるか、教材・指導方法の工夫を重ねたい。
英語科(北)	授業	授業に対する取り組み状況	意欲的に授業に取り組み、基礎学力をつける。	授業アンケートQ9「あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいる。」の平均値	3.3	3	小テストを実施し、基礎学力の定着を図る。 UNエア標準講座において補助プリントを作成し、授業内容の理解を深める。 学習ノートを作成させ、各生徒の学習状況をチェックする。	各学期の小テストの実施回数 各単元におけるプリントの作成数 年間ノート点検回数	単元毎の実施回数 1枚 3回	3 3 3	3	授業アンケートQ9の平均値が3.4で目標値を達成することができた。今年度は1年生UNコース全員にコースバス単語小テストを課しやり切った。課題は学力の定着と落ち着いた授業。
家庭科(北)	授業	授業に対する取組状況	授業に興味関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢を向上させる。	授業アンケートにおける学習状況に係る評価項目の平均値	3.4	3	不要物の撤去など学習環境を整える。 ノート点検の回数を増やし生徒の学習状況を把握する。 意欲的に取り組める授業を工夫し、実験・実習を効果的に取り入れる。	指導頻度 ノート点検回数 実験・実習の割合	90% 年間6回 40%	3 3 3	3	家庭科全体の平均値は3.5と概ね良好な値であり、中間の課題であった1年生のQ8(私語・居眠り)Q9(意欲的態度)が3.4に向上し目標値に達することができた。
情報科(北)	授業	授業に対する取り組み状況	授業に興味・関心を持つ。	授業アンケートQ9「あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいる。」の平均値	3	3	授業開始時に、上履きをつま先揃えて所定の場所に入れているか確認する。 授業時に、不要物の持ち込み禁止の連絡を行う。 授業中に私語をする生徒に対して厳しく指導する。	確認割合 指導割合 指導割合	95% 95% 95%	3 3 3	3	クラスにより毎時間注意をしなければならぬ生徒がいるが、根気よく生徒に声掛けをし、授業規律の確保はほぼできた。授業内容についても計画通りに実施できた。
	教材研究・研修	教科に関する基礎的教養、指導力の向上	教科情報の教科指導法を研究し、実践に生かす方法を検討。	京都府立高校情報教育研修会に参加し指導力を高める。	年2回	3	生徒の興味や関心の高まる授業作りのため、情報教育研修会に参加する。	研修参加回数	年2回	3	3	研修会は可能な限り参加できた。生徒の理解度の差も年々広がるので次年度の課題として色々な機会を捉えて新しい情報の内容や指導方法の工夫を図りたい。
商業科(北)	授業	指導方法の工夫	学習習慣を身に付け、基礎基本的な学力の定着を図る。	授業アンケートQ10「あなたは、課題や提出物を期限を守って提出できている。」の平均値	3.5	3	授業時に課題の提出割合を確認する。	実施率	95%	3	3	Q10の平均値は3.56であった。学習習慣の定着を図るために課題の点検状況を踏まえ、丁寧な指導を継続していく必要がある。
	検定・資格	資格取得	資格取得により進路を保障する。	商業に関する検定試験の受験者数	50人	2	全商主催の簿記実務検定・ビジネス文書実務検定・情報処理検定の受験案内	案内回数	4回	3	2	検定受験者数は延べ41人であった。授業をとおし、生徒の意欲関心を引き上げられなかった。今後は授業工夫に加え、様々な取組を取り入れて授業を活性化し、受験意欲を高めたい。
国語科(南)	学習指導	授業規律の確立	授業規律を確保し、基本的な学習態度を身につけさせる。	授業アンケートQ5「先生は、私語や不要物などに対して注意を行い、規律ある雰囲気のある授業をしている。」の平均値	3.2	3	授業開始の挨拶をし、机上の整理を促し、授業環境を整える。 国語総合・古典のノート点検を行う。 漢字検定学習会を行う。	指導割合 ノートの点検回数 漢字検定前に対策学習会を行う。	80% 3回 3回	3 3 3	3	ノート点検・漢字検定学習会等も予定通り実施できた。
地歴公民科(南)	授業	基礎学力の向上	基礎学力の定着を図るため、学習に取り組む姿勢を向上させる。	授業アンケートQ4「先生は、興味や関心が高まる授業をしている。」の平均値	3.3	3	教科書、ノートなど必要物の確認を徹底する。 定期考査時にノートやプリントなどの点検をする。	年間実施率 点検回数	80% 5回	3 3	3	教科書・ノートなど持ち物の確認、定期考査時のノート確認は、毎月必ず行っている。特に3年次の日本史は各講義でも積極的に学習している生徒が多く、地歴公民科に興味・関心があり、地歴公民科が好きになる生徒が多く見られ、自主的に学習していた。今後は、さらに意欲的に学習する生徒が増加するように指導することで、地歴公民科が好きになる生徒を増やしたい。
数学科(南)	授業	基礎学力の向上	学習に取り組む姿勢を高める。	授業アンケートQ6「あなたは、授業の開始時に着席し、授業の準備ができています。」の平均値	3.4	3	始業チャイムと同時に立礼を指導する。 「自己評価カード」を配布し、忘れ物・身だしなみ・取り組む姿勢を自己評価させる。 週末課題を課し、家庭学習の習慣を身につけさせる。	指導割合 指導割合 実施回数	90% 90% 20回	3 3 3	3	定期考査の直前だけ頑張り姿勢が問題である。授業を中心に据えた学校生活を送る生徒の数を増やしていきたい。
	検定・資格	検定受検・資格取得	数学検定を通して数学的な見方・考え方を向上させる。	数学検定の合格率	60%	2	数検対策の学習会を実施する。	学習会の回数	3回	3	2	第2回は受験希望者が少なく実施できなかった。受験者数を増加させるために、数学に興味を持たせるための取り組みを進めていく必要がある。
理科(南)	授業	基礎学力の向上	学習に取り組む姿勢を高める。	授業アンケートQ6「あなたは、授業の開始時に着席し、授業の準備ができています。」の平均値	3.3	3	始業チャイムと同時に立礼させる。 身だしなみを整えさせ、授業規律を守らせる。	指導頻度 指導頻度	90% 90%	3 3	3	毎時間の声かけにより、一定の授業規律を保っている。ただし、一部の生徒に学習に取り組む態度を定着させられなかったため、個々への声掛け、指導により今後の改善を目指していきたい。
	授業	基礎学力の向上	学習に前向きに取り組む姿勢を高める。	授業評価アンケートQ9「あなたは、課題や提出物を期限を守って提出できている。」の平均値	3.0	3	考査前学習会を実施する。 実験・実習・VTR視聴ごとに課題を期限内に提出させる。 考査ごとにノートをチェックする。	考査前学習会を考査ごとの実施回数 提出の呼びかけ頻度 ノートのチェック回数	5回 90% 5回	3 3 3	3	概ね、達成できた。考査前以外にも自主的に学習できる生徒を増やしていけるよう働きかけしていきたい。
保健体育科(南)	授業	学習意欲の向上	授業開始時の意欲を高める。	授業アンケートQ6「あなたは、授業の開始時に着席し、授業の準備ができています。」の平均値	3.5	3	体育/保健の授業開始時における生徒準備状況を確認する。 授業内容・進度、生徒の様子など情報を共有する。	5分前・3分前/1分前に集合整列、または活動の準備をしている生徒の点検回数 教科会議の実施回数	80% 月1回	3 3	3	授業前準備や授業前整列の意欲が定着し、全学年共に前向きな雰囲気の中で授業に取り組むことができた。特に3学期の球技選択では、コート準備を、整列した状態で始業チャイムを迎えることができた。次年度は、年間を通し意欲的に取り組めるよう指導していきたい。
芸術科(南)	授業	生徒の授業への意識の向上	意欲的に取り組む姿勢を高める	授業アンケートにおける学習状況に係る評価項目の平均値	3.3	3	必要物を確認し、不要物への指導を行う。 意欲的に取り組む姿勢を高めるために、生徒の活動状況に応じた指導を徹底する。	確認割合 授業規律の確保のための声掛け割合	80% 80%	3 3	3	実習時の準備はほぼ完璧。次年度も学習への意欲をもたせたい。
英語科(南)	授業	基礎学力の向上	英検指導をとおして英語力の向上を図る。	準2級2人、3級2人の合計4人を上回る合格者数	昨年度の合格者数+1	3	語彙力アップのためのテストを実施する。 1次合格者に面接練習を実施する。	実施回数 実施回数	単位数×10回 合格者数×2回	3 2	3	2次試験対策の時期が他の行事と重なってしまい、十分に指導をする時間が取れなかったが、自律的な学習を促すことが功を奏し、当初の目標を達成できた。
家庭科(南)	学習指導	授業規律の確立	授業規律を確立し、授業に対して興味・関心・意欲を向上させる。	授業評価アンケートQ5の規律に関する項目の平均値	3.3	3	授業開始時にあいさつを行う。 調理実習時に事前予告のお知らせプリントを配布し、準備物の徹底を図る。	実施率 エプロン持参人数	80% 80%	3 3	3	方策については確実に実施ができた。重点目標についても達成できたと考える。
情報科(南)	授業	基礎学力の向上	学習に取り組む姿勢を高める。	授業アンケートQ9「あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいる。」の平均値	3.0	3	机間巡視などにより課題への取り組み状況や態度を点検する。 始業チャイムと同時に立礼を行う指導をする。	指導割合 指導割合	90% 90%	3 3	3	特に1年は例年以上に個人差が大きく、進度を揃えるのに困難な場面があったが、概ね意欲的に取り組めたとというアンケート結果から、目標はほぼ達成できた。ただし、さらなる個に応じた指導法を研究する必要がある。
福祉科(南)	介護実習	学習の定着	介護実習において活かせる力を身につける。	実習責任職員の総合評価(満点4.0)	全学年2.8	3	1年生・コミュニケーション技術においてチームティーチングを活かした演習を実施する。 2年生・生活支援技術においてチームティーチングを活かした演習を実施する。 3年生・介護過程においてチームティーチングを活かした演習を実施する。	1年生の授業時間内における左記演習時間を確保する回数 2年生の授業時間内における左記演習時間を確保する回数 3年生の授業時間内における左記演習時間を確保する回数	12回 30回 12回	3 3 3	3	年間計画通りに授業進行でき、介護実習における実習責任職員の総合評価(満点4.0)は1年生は3.10、2年生は2.97、3年生は2.98であった。中間時に下方修正した上で目標値を達成することはできたが、複数の課題が見いだされ、今後課題解決しなければならない。
<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>1 安心して学べる学校づくりについて(四ない運動+1・自転車通学マナー) ・2年半前に本校生徒が死亡に至ったバイク事故を経験しているにも拘わらず、四ない運動義務違反が減少していない。「命の大切さ」をより理解させる教育の徹底をお願いしたい。 ・通学時の自転車マナーについて重点的な指導をお願いしたい。 ・地域の中の府立高校として、京都八幡高校「安全を守るんジャー」の地道な活動の継続を望む。 2 学校評価・教職員評価・学校関係者評価について ・学校経営計画で、学業のみならず、生徒の生活も大切にし、成果が年ごとにも上がっていることを高く評価する。 ・授業アンケートは、今後の授業の充実の良い機会である。数字に表れない部分も含め、学校全体のレベルアップに繋げていただきたい。 3 特色ある教育活動について ・地域の皆さんとの協力を得て、身近な事から保護者、地域、学校が連携する取組を進めていきたい。 ・生徒の希望進路の実現のため、一層の努力を期待したい。 ・福祉(介護)人材の不足の中、87%を超える介護福祉士国家試験合格率達成は、質を示す実績だと高く評価する。より質の高いスペシャリストを育成するため更なる努力を望む。 4 八幡支援学校との交流について ・平成25年度内閣府/リアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者受賞を飛躍の機会ととらえ、活発な交流活動を期待する。</p>												
<p>次年度に向けた改善の方向性</p> <p>1 京都八幡高等学校開校8年目を迎え、ユニバーサルデザインの基本理念のもと、より安心で安全な学校作りをめざす。 2 北キャンパスでは普通科総合選択制では更なる教育内容の充実を希求する。 3 南キャンパス人間科と介護福祉科では、3期生が卒業し、専門学科として検証し、専門性をより一層高めるとめざす。 4 八幡支援学校との交流学習の在り方を含め、一層魅力ある、特色ある学校づくりをめざす。 5 原級留置、中途退学等の防止を最優先に、一人ひとりであった教育内容を推進する。 6 魅力あふれる地域の学校として、特色ある取組を推進し、アピールすることによってより中学生から選ばれる学校作りを進める。</p>												